支部だより

千葉支部

支部長　小宮山修

千葉支部の近況報告をします。現在支部員は会員十一名、準会員四名、会友二名の十七名です。

一般の方に目を向けると前回の支部展に参加された会員候補は八名、又二十六年度第三十八回展に出品された方は十名、第三十七回展に出品された方も十名でした。

一般出品者には何度となく会への勧誘を重ねておりますがそれぞれ諸事情がおありのようですが、継続交渉しているところです。

一度何かしらの受賞をしますとそれが弾みとなって当会に目を向けるようです。逆に三・四年で結果が出ないことにこだわる方がいますが根気よく着実に自分の世界に挑戦することを勧めるものです。

では活躍している支部員の活動報告を致します。森屋事務局長を筆頭に第三十回記念「沼美展」平成二十七年一月十四日～十八日、柏市民ギャラリー（朝日新聞一月十四日付け朝刊に掲載）岩尾計助氏（21美術協会常任参与）他、出品者三十二名、うち当会関係者九名（片桐金治郎・熊尾清孝・小瀬延枝・竹内正行・高山はま子・福井千鶴子・田中光子・水野美預子森屋治三）おり勢力拡大しています。作品も力作が並びレベルの高い鑑賞が出来ました。

石原修委員が参加している第三十三回「新春佐倉美術展」二十七年一月六日～十八日佐倉市立美術館にて開催。石原委員の「春雷」F100号、自身の強い個性で不安定な構図の中に在る安定感と力強さは色彩と共に見る者を引きつけます。出品者百六十八名、三十七団体、日展参与、旺玄会常任理事や三軌会、太平洋美術会、等の会員が名を連ね、迫力ある作品群は圧巻でした。

水野美預子さんは沼美展の他、第七回グループ展「飛桜会展」を二十七年二月二日～七日ギャルリーソレイユで開催、当会児玉委員や春陽会、新世紀、示現会、朱陽会の仲間と競合、精力的に活動している一人です。大熊善治さんは二十六年十一月二十八日～十二月一日まで「ふれあい展」浅草孔雀堂で、二十七年五月には美術家集団創葉会「小品展」東京交通会館シルバーサロンを予定しています。（一柳委員も参加している）

こうした仲間が集い四月二十四日（金）～二十八日（火）には第十八回千葉支部展を開催する運びとなっています。

沼美展にて　水野美預子さん（左）、田中光子さん（右）

さきたま支部展を開催して

支部長　住佐美紗子

支部展のトップバッターで第十回新日美さきたま支部展を三月十二日から、大宮氷川の杜文化館で開催しました。大宮で開催するようになって四年目、固定客も増え、初日から賑やかでした。本部からは鈴木会計さんが早々駆けつけて下さり、すっかり顔なじみになりました。四日間という短い会期でしたが充実した四日間だったと思います。土・日を含まない期間なので心配もありましたが、来て下さる方は殆どリピーターで、作品の多彩さも加わって、賑やかに来客同志が楽しげに話が弾み知り合いになっていました。

出展作品は油彩画、日本画、水彩画、版画、切り絵、スケッチと年々多彩となり、なじみの来客から色々あってとても楽しいという意見が聞かれました。

残念だったのは支部間の交流が少なかったことです。

忙しいとは思いますが支部展をきっかけにもう少し交流があればと願っています。半日あれば出掛けられると思いますので時間を作って訪問したいものです。

個人的ですがびっくりが二つあった。一つは学生時代四年間新聞部で頑張った仲間の一人がインターネットで調べたと言って会場に現れ四十年ぶりに合えたこと、もう一つは九十二歳の友が信州から新幹線で駆けつけてくれたこと、これらも支部展をやっていたことによるもので本当にうれしいことでした。

会場の予約から展示、搬入出と忙しい日常の中、大変だと思う事もありますが続けて行きたいと思っています。

鈴木健夫特別会員の賛助出品

スケッチ会の実施報告と次回予定

事業部　一柳　幸

2015-3-21（土）谷中夕焼け段々

谷中は東京の山の手と下町との中間位に相当する場所であろう。ここでは描きたくなるポイントが幾つもある。まづ夕焼け段々、そして谷中銀座、岡倉天心記念公園、ホタル坂等々そして寺が多い。谷中銀座には食欲をそそる店も少なくないし春灯ともす頃の日暮れの風情も又格別である。

ところで広重の「江戸百景」に谷中が描かれていない。近くの千駄木団子坂が描かれているのに不思議である。当時の谷中はあまりにも淋しい所だったのかも知れない。せめて情感豊かな蛍坂だけでも描いておいてほしかった。

2015-4-10(金)　九品仏の桜

4月10日間もなく雨が降りそうな春の空だった。九品仏の境内は散り残る桜が春愁の余韻を見せていた。残花の風情はまことに絵心を誘う美しさと言えよう。上品、中品、下品の三堂それぞれに三体づつ計九体の阿弥陀仏がおわし、あたりの静寂な雰囲気には心ひかれるものがある。道のかたえの花びらの積み重なりが、移りゆく春を見せて感ひとしおの思いだった。

「行く春や　花びら一つ手のひらに」と思い乍ら中品堂の前で描き始めると、参拝の一人か、あるいは二人か、その足音だけが僅かに聞こえて閑寂なひとときだった。

筆を置いて残花を仰ぎ萌え始めた葉桜の緑にも眼を移して、一枚描き上げた幸せをみ仏に感謝した次第。帰路門前の蕎麦処に足をとどめたのは言うまでもない。

次回予定

当日7時の天気予報で降水確率50%を超える場合中止します。

○2015-5-13（水）雑司ヶ谷鬼子母神

鬼子母神本堂前 10 時集合　都電荒川線、雑司ヶ谷鬼子母神前下車けやき並木参道徒歩約百米

○2015-6-10（水）神田明神

神田明神正門前 10 時集合